23　　いつの時代も暴君は 　文法　否定形③　他の漢字と組み合わせる否定

後漢の王であるは、重臣のの娘を夫人として寵愛した。やがて政治をおろそかにするようになり、後宮で日夜、宴を開くようになった。

群　臣　欲㆑スルモ 言㆑ハント 、チ ①不㆑ ㆑ ユル。 不㆑シテ 得㆑ ムヲ、乃チ ㆘ 侍　 ㆓シテ ノ 内㆒ニ ㋐与　語㆖ラ。諸　将　㆑ルヤ 非㆓ズト 更　始ノ 声㆒ニ、　皆　怨ミテ 曰ハク、「成　敗　②未㆑ 可㆑ 知。カニ ラ 　ナルコト ㋑若㆑ 此。」

趙　萌　③ 、威　福　㆑リス 己。　ニ 有㆘リ 説㆓ク 萌ノ 放　縦㆒ナルコト 者㆖。更　始　怒リ、抜㆑キテ 剣ヲ 撃㆑ツ 之ヲ。自㆑リ 是レ　④㆓ 　　言㆒フコト。

語注

侍中＝帝のにいて、諸事を取り仕切る官。

【原文】

群　臣　欲　言　事、輒　酔　不　能　見。時　不　得　已、乃　令　侍　中　坐　帷　内　与　語。諸　将　識　非　更　始　声、出　皆　怨　曰、「成　敗　未　可　知。遽　自　縦　放　若　此。」

趙　萌　専　権、威　福　自　己。郎　吏　有　説　萌　放　縦　者。更　始　怒、抜　剣　撃　之。自　是　無　復　敢　言。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

〔　　　　〕は更始に議案を言おうとしても、いつも更始は〔　　　〕っていた。また、話をしてもそれは更始の〔　　　〕ではなく、侍従のものであった。また、〔　　　　〕が自分勝手な振る舞いを続ける中、最後には更始に誰も進言しなくなった。

問二　波線部㋐･㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　　〕

問三　否定形③　他の漢字と組み合わせる否定

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 不㆓敢ヘテ ～㆒〔セ〕 | | 不㆑得㆓～㆒〔スル（コト）〕ヲ | | 不㆑能㆓ハ ～㆒〔スル（コト）〕 | | 不㆑可㆓カラ ～㆒〔ス〕 | |
|  |  |  | ～〔する（こと）〕を得ず | ～できない。 |  | 〔不可能〕～できない。〔禁止〕～してはいけない。 |  |

　⑴　次の表を完成させよ。〈1点×5〉

⑵　次の文を現代語訳に従って、書き下し文にせよ。 〈2点×2〉

1　荘　不レ 得レ 撃。（荘は撃つことができなかった。） （史記）

2　不㆓ 敢　視㆒。（見ようとはしなかった。） （十八史略）

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部①を人物名を補って現代語訳せよ。 〈7点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②について、

⑴書き下せ。〈5点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵現代語訳せよ。〈5点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部③とは、どういうことか。最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　権力に振り回されなかったということ。

イ　権力をほしいままにしたということ。

ウ　一心に政治を執り行ったということ。

エ　政治に興味を示そうとしなかったということ。

〔　　　〕

問七　傍線部④は、「役人たちは二度とは更始に進言することはなかった」という意味であるが、役人たちが進言をやめたのはどのようなことをきっかけとしているのか。二十字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問一　群臣　酔　声　趙萌

問二　㋐＝ともに　㋑＝かくのごとし（と）〈4点×2〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 不㆓敢ヘテ ～㆒〔セ〕 | | 不㆑得㆓～㆒〔スル（コト）〕ヲ | | 不㆑能㆓ハ ～㆒〔スル（コト）〕 | | 不㆑可㆓カラ ～㆒〔ス〕 | |
| ～しようとしない。～する勇気がない。 | 敢へて～〔せ〕ず | ～できない。 | ～〔する（こと）〕を得ず | ～できない。 | ～〔する（こと）〕能はず | 〔不可能〕～できない。〔禁止〕～してはいけない。 | ～〔す〕べからず |

問三　⑴　〈1点×5〉

⑵　１＝荘撃つ（こと）を得ず。　２＝敢へて視ず。〈2点×2〉

問四　群臣は更始にお会いすることができなかった。〈7点〉

問五　⑴　未だ知るべからず。〈5点〉

⑵　まだ知ることができない。〈5点〉

問六　イ〈6点〉

問七　趙萌を訴えた役人が更始に殺されたこと。（19字）〈10点〉

【現代語訳】

　多くの臣下が事〔＝政務上の議案〕を（更始に）言いたいと思っても、そのたびごとに（更始は）酔っており（群臣は）お会いすることができなかった。どうしてもやむを得ない場合には、（更始は）侍中を帷の中に座らせ（奏上に来た者と）一緒に話をさせた。将軍たちは（自分と話している相手が）更始の声ではないとわかると、（宮廷の）外に出るや皆不満に思って言うことには、「（今後の天下の）成り行きがどうなるかはまだ知ることができない。（しかし、更始は）突然自分からこのようにわがまま勝手だ。」と。

　趙萌は権力をほしいままにして、刑罰と恩賞を自分勝手に行っていた。（更始の側近の）役人の中に、萌がわがまま勝手に振る舞っていることを（更始に）進言した者がいた。更始は怒り、剣を抜いてこれ〔＝進言した者〕を撃ち殺した。これより後（役人たちは）二度とは（更始に）進言することはなかった。

【書き下し文】

を言はんとするも、ちひてゆるはず。としてむをずして、ちをしてのにしてにらしむ。のにずとるや、でてみてはく、「だるべからず。かにらなることくのごとし。」と。

をらにし、よりす。にのなることをくり。り、をきてをつ。よりたへてふことし。

【補充問題】

問１　「輒」（１行目）、「乃」（２行目）の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）

問２　「識非更始声」（２～３行目）を現代語訳せよ。

問３　「更始怒」（６行目）とあるが、更始は何に対して怒ったのか。最も適当なものを選べ。

ア　趙萌が更始の意向を無視し、独断で刑罰と恩賞を行ったこと。

イ　更始の自分勝手な振る舞いを、役人たちが不満に思っていたこと。

ウ　役人の一人が、趙萌のわがままな振る舞いを進言したこと。

エ　側近の役人が趙萌と共謀して、自分勝手に政治を執り行ったこと。

【補充問題解答】

問１　輒＝すなわち　乃＝すなわち

問２　更始の声ではないとわかると

問３　ウ